令和５年６月１２日

令和４年度　特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学　校　名	管理機関名	設置者の別
足利市立山辺小学校	足利市教育委員会	公立

１．特別の教育課程の内容

（１）特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成１５年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

２．特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（１）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

⊙計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

（２）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

⊙実施している

・実施していない

（３）自校における評価

・第１学年からの英会話学習の実施により、英語に慣れ親しむことができている。

・ＡＬＴやＥＡＡが校内にいて、児童に積極的に英語で挨拶をしたり話しかけたりしているので、児童は自然に英語に触れることができる。

・第１学年から、ＡＬＴやＥＡＡの発音を耳にしているので、英語の時間に話している児童の発音がよく、自然と話している感じが受け取れる。

・第１学年から英会話学習を進めることで、抵抗なく外国語や外国の文化に興味を持つ児童が増えている。

（４）学校関係者による評価

＜児童＞

・いつも楽しそうな興味を引くような英語の授業をしてくれるので、楽しみにしている。

・英会話学習を行うことにより、外国の言葉や文化への興味をもつようになってきた。

・話ができるようになって、うれしい。

＜保護者＞

・グローバル化に対応し、主体的にコミュニケーションを図ろうとする力が育ってきている。

・家で英語の歌を歌うこともある。発音なども自然と身についているように感じる。

４．　実施の効果及び課題

・１年生から実施することで，英語に抵抗感なく取り組むことができている。低学年の英語に関する活動は年間で 10 時間だけなので、授業の間がかなり空いてしまうが、児童は活動を楽しみにしている。

・足利プランによる１０時間の英会話学習の中で、身に付けた力を使ってコミュニケーションを図っている様子が見られ、効果的に能力を伸ばしていると考えられる。一方で、特に５・６年が実施している「英語チャレンジＤＡＹ」については、実施時期の検討や内容等について校内研修が必要である。

５．課題の改善のための取組の方向性

・現在の取り組みを続けながら、ALT や EAA が校内にいることで、日常的に触れあう機会を増やし、英語を使ったコミュニケーションの機会としていく。

・他校での授業の様子を参観するなどして、実践的な教員研修を行う。